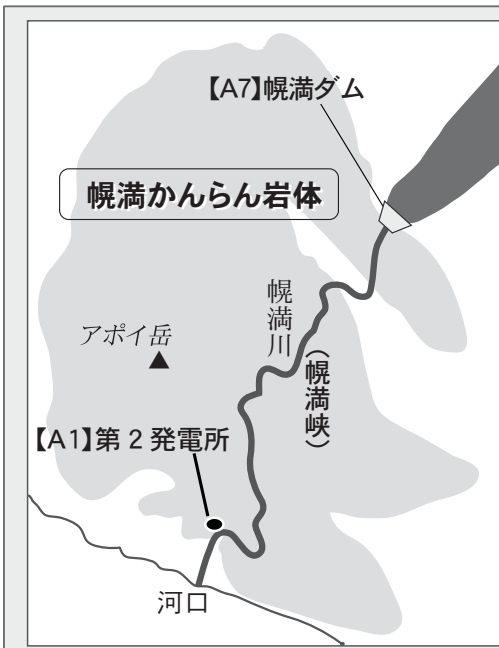


とってもやさしい
アポイ岳ジオパーク講座
【第6回】

ジオサイトめぐり
(見どころ) その3



■幌満峡エリア：

【A1】第2発電所、【A7】幌満ダム

アポイ岳やピンネシリを含む一帯は、地下50kmもの深くから持ち上げられたかんらん岩でできています。「幌満かんらん岩体」と呼ばれるその地上に現れたかんらん岩の広がりには南北10km・東西8kmにも及びますが、それを南北に縦断する流れが幌満川です。

河口に近いジオサイト「第2発電所」が幌満かんらん岩体の南の端、上流のジオサイト「幌満ダム」が北の端に当たります。この2つのジオサイトの間が、幌満川の流れが長い年月をかけて硬いかんらん岩を深く削ってできた渓谷「幌満峡」です。幌満峡の大きな魅力であるその渓谷の深さは、かんらん岩の硬さから生まれたものでもあるのです。

▲幌満かんらん岩体の広がり(灰色の網かけの部分)と幌満峡

■様似海岸エリア：【C4】観音山

観音山の見どころの一つが、早春の花たちです。雪解け直後からエゾエンゴサク、カタクリ、オオバナノレンレイソウなどが先を争うように咲き誇り、とてもにぎわいます。

これらの花はあっという間に終わり、葉っぱだけ残して姿を消してしまいます。その葉っぱも初夏には枯れてしまいます。しかし、本当に枯れたわけではありません。地下の部分に栄養をたっぷり貯め、次の春をじっと待っているのです。これは、ライバルの少ない早春に咲くことで受粉を手伝ってくれる虫たちの目を引いたり、他の草や木々の葉が開いて森の中が暗くなる前にたっぷり太陽の光を浴びたりするための、したたかな戦略なのです。



スプリング・エフェメラル(春のはかないもの)とも呼ばれる春の花のひとつエゾエンゴサク

春が来たなら、みんなにも観音山の花たちにぜひ会いに行ってみよう。見ごろは4月下旬から5月いっぱいまで。桜とは一味違ったお花見もおススメです。



うーん、今度からシャワーの時間は短めにしようって。



でも、とっても硬いかんらん岩を削ってしまうなんて、水の力ってすごいよね。



ね。みんなも今度幌満峡に行ったら、ぼくのことを思い出してね。

